

別記

(書式1)【候補者用】

① 立候補者の 姓名と所属	李 泰榮 (い てよん) 国立研究開発法人 防災科学技術研究所
② 立候補の理由と抱 負 (400字程度)	<p>私は、行政の防災担当、地域コミュニティ、小中学校、社会福祉協議会など、地域社会の様々なステークホルダーを対象に、自然災害に関する防災対策・防災教育の実践に関する研究を進めています。近年の地域社会は、少子・高齢化、地域コミュニティの貧弱化など、急激に変化しており、特に、全国各地で発生している多くの自然災害の教訓から、災害に対する防災・減災に加え、復旧・復興過程での二次被害の低減が重要視され、多様な地域社会のリスクを融合した災害対応が必要であると考えています。</p> <p>2008年より、本学会の正会員として活動させていただいており、異分野で活躍するリスク研究者が横断的に議論できる場である当学会の意義高さを強く感じております。リスク研究は、一つの分野の考えだけで解決を図るものではなく、社会全体としての複雑な影響も踏まえた対応としての研究が必要であると考えています。今後、自然災害のリスク分野における本学会のプレゼンスを一層高めるとともに、本学会の他分野のリスクを専門とする会員の皆様と協力し、多様化・複雑化している地域社会に対して分野横断型のリスクマネジメントの実践につながる積極的な活動を進めていきたい所存です。</p>
③ 本学会における 活動歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・編集委員 (2017～)</li> <li>・学会大会での研究発表21件 (2009～)</li> <li>・企画セッション運営4件</li> <li>・東日本大震災における当学会災害対応特設サイトの開設・運営 (2011-2012)</li> <li>・日本リスク学会 第16期役員、情報担当理事 (2018～2020)</li> <li>・日本リスク学会 第17期役員、情報担当理事 (2020～現在)</li> </ul>
④ 研究歴・職歴等 (100字以内)	<p>2001年に在日し、2007年に福井大学大学院を修了 (博士 (工学))。大学の非常勤講師等を経て、2009年に防災科学技術研究所入所。2015年に同所主任研究員に着任。2019年に同所災害過程研究部門副部門長に着任。防災活動の実践手法やツールを開発し、2017年に文部科学大臣表彰を受賞。</p>

(書式2) 【推薦者用】

① 推薦する候補者名	李 泰榮 (い てよん)
② 推薦者の姓名と所属	米田 稔・京都大学
③ 推薦理由 (400字程度)	<p>李泰榮氏は、我が国唯一の総合防災研究機関である防災科学技術研究所の中で、災害に強い社会の実現に向けて、地域における様々な主体が参加する実践的な防災対策手法とシステムに関する研究開発に取り組んでいる。特に、自治体、住民、NPO等、実際に施策や活動を行う現場の主体との協働を重視し、その成果は、全国各地の地域防災の実践や、東日本大震災をはじめとした被災地の復興政策・復興教育等に採用される等、実社会に直接寄与しており、2017年には文部科学大臣表彰も受けている。</p> <p>東日本大震災以降、顕著化してきた社会の様々なリスクに対して研究成果の最大化が求められている今、当学会においても、研究成果の社会への適用といった観点から、当学会を積極的に牽引・発展させる人材が不可欠である。その点で、李泰榮氏は適任であり、理事に推薦する次第である。</p>